

ウラジーミル・プーチンは、情報戦の達人として長い間評判を享受してきました。過去10年間で、彼のソーシャルメディアの武器化と偽の物語の積極的な宣伝は、2014年のクリミア半島の押収や2016年のドナルド・トランプの選挙など、さまざまな画期的な業績において極めて重要であることが証明されています。

これにより、現在の状況はさらに驚くべきものになります。プーチンのウクライナ侵攻はまだ2週間も経っていないため、情報戦争が決定的に失われたことはすでに明らかです。

プーチンの攻撃が2月24日に始まって以来、世界はウクライナを支持して圧倒的に集結しました。国際社会の大多数はまた、ロシアの侵略を声高に非難している。確かに、戦争は現代史において善と悪の最も白黒の問題として広く宣伝されています。

プーチンの侵略は、彼の手ごわい偽情報マシンでさえも対抗することができなかった方法で、明らかにロシアを有毒にしました。それは前例のない国際的な制裁につながり、世界最大の企業の多くに国とのすべての関係を断ち切るように説得しました。中国のような以前は信頼できるパートナーでさえ、クレムリンを公に支持することをますます望んでいないようです。

その間、偽りのロシアの物語はもはや国際的なメディアで平等なスペースを与えられていないか、または挑戦せずに通過することを許されていません。プーチンの侵略を正当化しようとする試みは、特に大きな牽引力を得ることができなかった。代わりに、ウクライナの「ネオナチ」と「麻薬中毒者」についての彼のますます邪魔されていない暴言は、広く嘲笑されるか、単に却下されました。

情報面での壊滅的な敗北の現実に直面して、プーチンは撤退し、現在、国内のロシアの聴衆に対する彼のグリップを保護するために必死のスクランブルに乗り出している。戦争の最初の10日間、モスクワはFacebookとTwitterを禁止し、国の残りの独立したメディアのほとんどを閉鎖し、戦争に関してクレムリンのオーウェル党の路線に疑問を投げかける人に長い懲役刑を約束する厳格な新しい法律を導入しましたウクライナで。

何年にもわたる成功の後、なぜプーチンは今、情報戦争をそれほど包括的に失っているのですか？

現在の戦争と2014年のロシアの侵略との主な違いの1つは、ウクライナに多数の国際特派員がいることです。プーチンの侵略計画の詳細を着実に発表するというバイデン政権の方針のおかげで、監視の世界は、大きな紛争が発生する可能性があることを事前によく知っていました。その結果、国際メディアの代表者が2021年後半にウクライナに集まり始めました。

2月初旬までに、キーウのトップホテルの多くは世界中のジャーナリストやカメラクルーでいっぱいになりました。この流入はまた、ハリコフ、リヴィウ、マリウポリ、オデーサなどの地方の首都に向かう記者を多数見えています。

ウクライナにおける前例のない国際的なメディアの存在は、何百人ものジャーナリストが彼ら自身のために国の現実に遭遇することを可能にしました。対照的に、以前のウクライナのニュース記事は通常、モスクワ支局によって報道されており、実際にキーウに住んでいるストリンガーはほんの一握りでした。これは、モスクワ中心のウクライナ情勢の見方につながり、局長は、ロシアの同僚の見下すような結論を支持しながら、クレムリンの物語にあまりにも多くの重みを与えることがよくありました。

対照的に、敵対行為の発生に至るまでの数か月間にウクライナに群がった西側のジャーナリストは、ロシアの偏見がほとんどなく、すぐに国の国際的な報道を再定義し始めました。重要なことに、彼らは仕事を続けたいのであればロシアの国家認定を確保しなければならないモスクワ特派員とは異なり、クレムリンに決して見守られていませんでした。

クレムリンは、外国特派員を比較的短い鎖でつなぐことを楽しんでいますが。モスクワを拠点とする国際ジャーナリストは、高官への直接のアクセスが非常に限られている傾向があり、スプーンで供給される情報に頼らざるを得ないことがよくあります。不便な真実を語る特派員は、ガーディアンズのルーク・ハーディングとBBCのサラ・レインズフォードに起こったように、追放の危険を冒します。生計を失うという非常に現実的な見通しに直面して、多くのモスクワ特派員は自己検閲に従事し、タブーの主題を避けることをすぐに学びます。

ウクライナのメディア環境は著しく異なります。ウクライナのメディアの状況は依然としてオリガルヒの利益に支配されており、非常に党派的な報道を受けますが、クレムリンが支配するロシアのメディアの厳格な検閲からは数年離れています。代わりに、ウクライナの多く

の異なるメディアアウトレットは、不完全であるが多元的なメディア市場を作成するために互いに競争しています。

この非常に自由で堅牢な情報環境のおかげで、ウクライナの国際ジャーナリストは、ウクライナの実際の状況を包括的に把握するために、さまざまな地元の同僚と交流することができました。この相互作用は、ウクライナ人とその西洋人をつなぐ共通の職業倫理と共通の価値観を強調するのにも役立ちました。

ウクライナの国際メディア報道における最近の劇的な改善は、ロシアの圧倒的な情報戦争の敗北の背後にある理由の一部にすぎません。

最も重要な単一の要因は、プーチン自身の物語の根本的な弱点のままです。極右政党が一貫して一桁台前半で投票しているユダヤ人大統領のいる国で「ナチズム」を根絶しているという彼の主張は、自明のことながらかけている。さらに悪いことに、ウクライナで彼の軍隊によって犯された戦争犯罪は世界を病気にしました。

プーチンがパリアになっている間、ウクライナのウオロディミル・ゼレンスキー大統領は世界的な英雄として浮上しました。Zelenskyyの賢明で率直な毎日のブリーフィングと彼の思い出に残る自分撮りビデオは啓示であり、「私は乗り物ではなく弾薬が必要です」などの象徴的な引用はすでに歴史に入っています。プーチンの明白な嘘とは対照的に、ゼレンスキーは誠実で率直なものとして出くわします。彼は自分自身を孤立させたり、同僚やメディアのメンバーを長さ10メートルのテーブルの反対側に座らせたりしません。

Zelenskyyがウクライナの情報戦活動の疑いのないスターである場合、他のウクライナ当局者も優れた業績を上げています。ドミトロ・クレーバ外相は、デジタルトランスフォーメーション大臣のミハイロフェドロフと同様に、ソーシャルメディア上で著名で効果的な存在でした。

ウクライナの軍隊は、定期的な更新と明確で首尾一貫したメッセージで挑戦にステップアップしました。彼らはウクライナの広大で活気に満ちた市民社会によって支えられてきました。この市民社会は、独創的なミームと士気を高める愛国的なメッセージとともに、軍事的関与とロシアの残虐行為に関する信頼できる最新情報を投稿する非公式の情報戦争軍として機能しました。

プーチンは、圧倒的な力を使ってウクライナに対する一時的な軍事的支配をまだ達成するかもしれないが、これを持続可能な政治的解決に変えることを彼がどのように望むことができるかは明らかではない。ロシアの暴行の野蛮さが今後数十年にわたって二国間関係を毒殺している間、情報戦争はすでに失われています。

弾圧の鉄のカーテンがプーチンのロシアに降りかかるので、国際的なメディア組織はすでに将来の戦後の期間を見据えているべきです。ウクライナが現在の紛争から脱却せずに出現した場合、地域特派員局はモスクワの息苦しい雰囲気を捨ててキーウに移転する必要があります。そこではメディアの自由の風潮と政治的圧力の欠如により、はるかに大きな真実と正確さでより広い地域をカバーすることができます。